



「帯西レンジャー」誕生秘話

今回は、まだ詳しく話していなかった帯西レンジャー誕生秘話をお話しします。私がまだ教諭の頃の23年前、託麻東小学校で高学年を担当していた頃です。そこでは子供たちが、大勢の人の前で自分を表現することに、ためらいや照れ臭さを持っていて、普段の授業や行事などでも自分の考えを出し合うことを子供たちに求めていました。その子供たちが6年生になる頃、大きな行事がやってきました。それは入学式です。表現することに少し自信を付けてきた子供たちに、さらに成長して欲しいと考えていた時に、百貨店でヒーローマスクを見つけました。その時、「これだ!!」とアイデアが浮かび、子供たちに「託東レンジャー」を結成してもらいました。レンジャーたちが一年生に学校の紹介をすると、これが大いにウケて、すっかり託東レンジャーは託東の名物になりました。そして託東で同学年を組んでいて、帯西に異動された先生から連絡がありました。「帯西でもレンジャーを使っている?」という内容でしたので、即答で「もちろんです!」と答えました。その後、帯西レンジャーは新聞等で大きく報道され、託東レンジャーより有名になりました。その後、帯西の子供たちの手によって、今のレンジャーの姿形になりました。

一方私は、大江小学校に異動となり、そこで道徳教育と出会い、道徳科の4つの視点を「4つの心」としてアイコン化して、道徳の授業の導入で示したり、学級活動の実践の振り返りに使ったりして、自分や友達の日常生活の行動を価値付けることに使っていました。このときに、道徳の4つの視点をシンボリックなものにすることで、子供たちも職員も道徳の4つの視点がより身近で分かり易くなるということ、学ぶことができたのです。その後城東小学校でも学級目標の中に「4つの心」を取り入れて道徳教育に取り組みました。この道徳教育で学び合った子供たちには、顕著な特徴がありました。それは自己有用感が育まれることと、学力が伸びるということでした。



大江小で作った「4つの心」

そして、教頭として銭塘小に赴任すると、熊本地震が起こりました。すると、大江小や城東小の教え子たちが、避難所でボランティア活動に率先して立ち上がり、避難所の生活改善のために大いに貢献する報道を耳にしました。教え子たちは、その要因の一つとして、道徳教育での学びを挙げたのです。

子供たちの姿から、「道徳教育を自信をもって推進していこう!」と心に誓い、銭塘小でも「4つの心」を作成しました。当時の校長先生から「道徳科の内容項目(子供たちが学ぶ道徳的価値を含む内容を短い文章で簡単に表現したもの)をもっと見やすいものにできないかしら?」と言われ、安易に「できます!」と答えてしまい、そこから生みの苦しみが始まります。するとある朝、子供が「教頭先生、見て見てー。」と言って、ジグソーパズルを見せてくれました。「これだ!!!」と思い、パソコンで一つ一つピースを仕上げながら、今の「心のパズル」の原型ができたのです。

その後、帯西に教頭として赴任し、帯西レンジャーと感動の再会を果たしてからは、パソコンでデジタル化して、今の形で活用できるよう準備をしていたのです。そして、校長となり、レンジャーに道徳的な意味づけを行って、「心のパズル」はもとより、職員Tシャツ、評価用のゴム印、下敷きなど作成し、帯西レンジャーは、大活躍をしてくれるようになったという訳です。



銭塘小で作った「心のパズル」



帯西のレンジャーTシャツのデザイン